



- 豊かな自然や歴史の景観ゾーン
- 西新井大師周辺地区特別景観形成地区
- 826年建立
- 山門、三匠堂が足立区登録文化財に指定
- 足立区の保存樹木あり
- 足立60景

応募者コメント

1「藤棚から見た西新井大師」

四季折々の花を楽しめる西新井大師は、足立区のシンボルです。

2「初冬のお大師さま」

西新井大師は地元ですので、毎日のように訪れています。四季それぞれですばらしい景色を見せてくれますが、秋が一番趣きがあると思っています。

3「夜の西新井大師」

職場からの帰り道、力をもらいたいときに西新井大師に寄ります。その時感じる美しい刻に、スマホを向けます。

4「日常の中にある非日常」

日常の中にある非日常に焦点を当てて撮影しました。

5「西新井大師の山門」

下町の良き風情が感じられるから

6「西新井大師参道」

西新井大師に向かう参道です。赤と茶色で「和」が感じられます。

7「菜種梅雨の頃の風景」

昨年の3月末頃、ちょうど西新井大師のしだれ桜が見頃とホームページで情報を得たので撮りに行きました。雨でまだ少し寒かったのですが、桜が雨に濡れて綺麗でした。

8「五色幕と紅白の梅」

お大師様大本堂西側の梅の木です。

9「母の大好きな藤の花」

西新井大師に咲く藤の花は、風になびくたびに良い匂いがして見事に咲いていました。昨年5月に亡くなった兄に続いて、藤の花が大好きだった母も今年2月に亡くなり、出来れば見せてあげたかったです。

10「五色幕と藤の花」

お大師様の藤は樹齢700年だとか。幹も太く立派です。

11「紫陽花の小道」

四季折々の花を楽しめる西新井大師で紫陽花が見ごろを迎えていました。

投票者コメント

- ・足立区を特徴づけているので、建物の背景や車窓から見える景色が配慮されてほしい。
- ・大きくリッパ。大師さまは外せません。

委員コメント

- ・山門、三匠堂が足立区登録文化財に指定されており、西新井大師の周辺地区も含め特別景観形成地区に指定されている。和風の意匠を意識した落ち着いた雰囲気のみち並みづくりが求められている。
- ・境内を含めランドマーク的で、歴史的にも価値がある場所である。
- ・足立区を代表する名所であり、山門などの歴史・文化性の高い建造物群とともに豊かな緑、オープンスペースが広がっている。





1

- 河川に囲まれた新旧調和の景観ゾーン
- 1927年開業

応募者コメント

1 「夕暮れのタカラ湯」

昭和には当たり前にあった銭湯も、時代とともに姿を消しつつあり、寺社作りの銭湯は、令和にはなおさら少なくなっていました。昭和13年（1938年）築の現タカラ湯は男湯側の縁側と庭園が有名ですが、今年の春からは、正面の千鳥破風や欄間の彫刻を引き立てるLED夜間照明を取り入れました。地元の照明デザイナーさんによる柔らかいあかりのデザインが、より建物を引き立て、これまで以上に地域の皆さんに愛されるランドマークになりました。

2 「タカラ湯」

かつて多くあった銭湯も減ってしまいました。こちらは日本庭園も素敵です。

委員コメント

・風呂がついていない家が多かった昔に比べると現代は銭湯が減ったが、癒しや交流等、それぞれの目的をもって銭湯に通っている。様々な役割を果たしている大切な場所である。誰もがみな、おそらくそれぞれの生活と繋がっていて懐かしく感じるのだと思う。

・タカラ湯は文化財などの指定はないが地域のランドマークとなっているため、この機会に価値を共有する意義がある。

・他に現存するものも含め、「銭湯の破風がある街並み」として、地域の景観資源としての活用を期待する。



2

- 河川に囲まれた新旧調和の景観ゾーン
- 1929年建設

応募者コメント

1 「世界のコルビジェが営めた名作 NTT千住」

建築家山田守が、師匠であるコルビジェにとっても美しいデザインであると称賛された逸話のある建物と聞きました。あと数年で竣工100年を迎える建物で、多くの人に愛されてきた名建築です。

2 「今も残る昔の風景 旧千住郵便局電話事務室」

北千住でレトロを感じる建物はいくつかあるが、その中でも好きな千住郵便局電話事務室。太陽の光が当たると綺麗な建物の曲面と煉瓦のスクラッチ模様が浮かぶのがとても綺麗で、ちょっとタイムスリップした気持ちにさせてくれる建物。

投票者コメント

・千住のNTTはやっぱり良いですね。

委員コメント

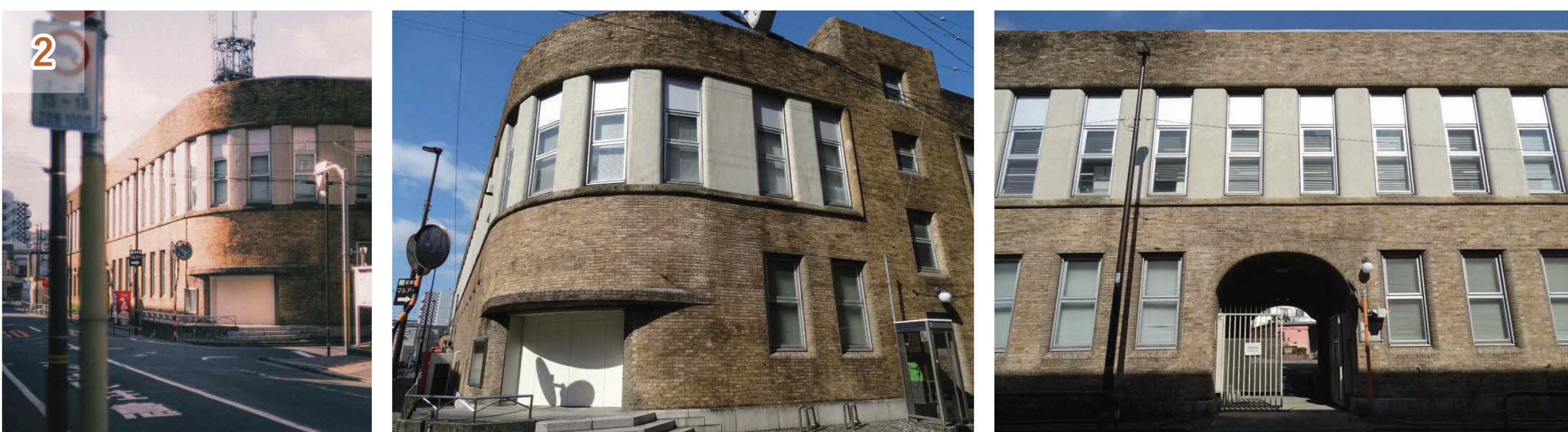
・文化財など何らかの保全制度下にはないが、モダニズム建築として、十分な価値を有している。

・角の丸みに合わせて焼かれたタイルなど細部にこだわった建物になっている。

・現在は周辺への波及効果はほとんど見られないが、今後は景観資源として、意識して活かされることを期待する。



1



2



- 豊かな自然や歴史の景観ゾーン
- 日暮里・舎人ライナー沿線地区
特別景観形成地区
- 2008年開通

応募者コメント

1「日暮里・舎人ライナー」

高速道路を走るトラックも超えていく、日暮里・舎人ライナーです。

2「日暮里・舎人ライナー」

日暮里舎人ライナーが開通し、不便な江北地域の交通の救い手となった。荒川の空を走る新しい風景となっています。

3「扇大橋駅近くの交差点から見る舎人ライナー構造物」

4「交差点等から見る舎人ライナー構造物」

車道はまっすぐ伸びているので見通しがよく、奥行感が強く感じられる眺めです。またライナー構造物のデザインが優れているので印象深い眺めになっています。具体的にいうと、下部構造物（支柱）は下の方が細くなっており、Yの字型に見える、斬新なデザインになっています。上部構造物も薄く見えるので軽やかさを感じさせ、洗練されています。さらに、空が構造物の背景となっているので構造物が図となって映えています。このような眺めは道路沿線に高い建物が建ち並んでいるところでは見ることができないものです。足立区西部では舎人ライナーが最大の景観資源だと思っていますが、街路樹があるので見通しが悪く、ライナーの奥行感のある眺めを見ることはできません。街路樹をツツジなどの低木にすれば、歩道のどこからでも見ることができるので、魅力的な眺めの通りになると思います。

5「舎人ライナーの運転席から連続して見る進行方向の眺め」

下りの舎人ライナーで運転席から進行方向を撮ったものです。無人運転なので、運転席から進行方向を見ることができます。またライナーは地上15mの高い位置にあるので、まわりを広く見渡すことができます。また奥の方まで見通せるので、開放感と奥行き感のある眺めになっています。目標が分かる安心できる眺めになっています。

6「上りの舎人ライナーから見る荒川 河川敷」

上りの舎人ライナーが扇大橋駅を出ると、戸建て住宅やマンション等が遠くまで見渡せる眺めが続きますが、しばらくすると建物が途切れて突然、高速道路が見え、続いて荒川左岸の芝生地（ゴルフ練習場）が目に入り、すぐに荒川の水面に変わります。これもしばらくすると荒川右岸の運動場が見えてきます。このように印象的な眺めが次々と大きく変化するのとは他ではあまり体験できないことです。

7「上りの舎人ライナーから見る荒川の四季」

遠方まで見渡すことができ、開放的で雄大な眺めになっています。荒川は常に水を満々とたたえており、眺めに変化がないようですが、季節によって微妙に違います。夏は樹木の緑が濃く、水面も薄い青色（水色）になっています。秋は青空を反映して水面が鮮やかな青色になっており、また、左岸には樹木の倒景が見られます。冬は左岸に残雪があり、緑が少ないので寒々とした風景になっています。春はまだ樹木の緑が淡く、また遠方がぼんやりと霞がかかっているように見えます。

委員コメント

- ・移動しながら連続して眺めるシークエンス景観として、方向性を持ち、視界の広がりのある魅力的な景観である。
- ・道路や鉄道と違い、防音壁がないため、日暮里・舎人ライナーからは、遠くの街並みまで見渡せる。日暮里方面から足立区へのアクセス路の一つであり、沿線地域だけでなく足立区のイメージを左右する重要な景観である。



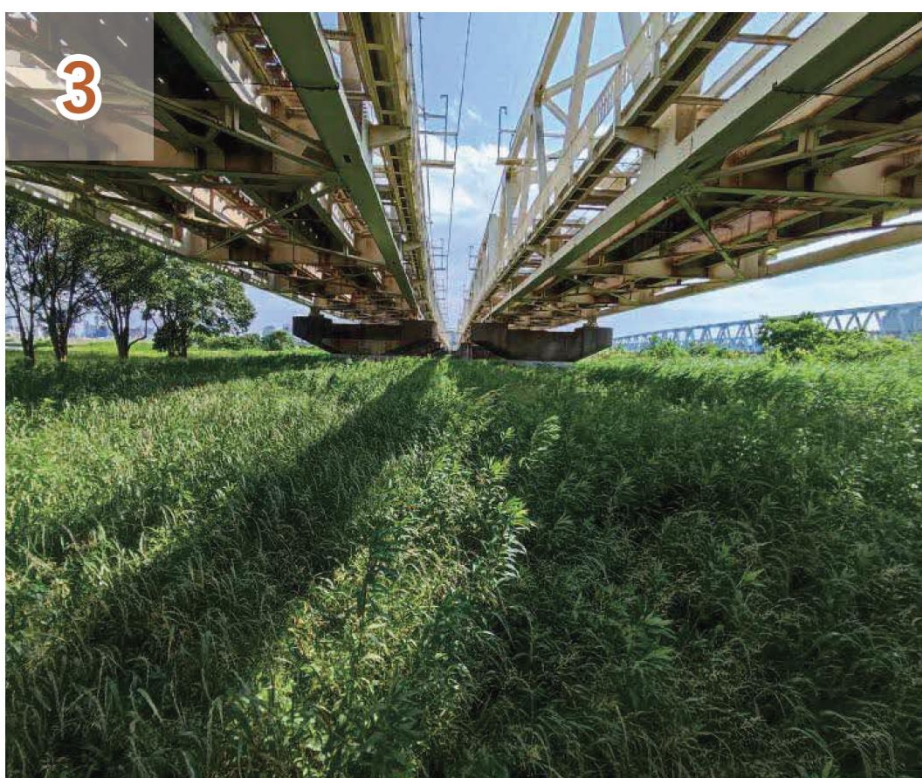
1



2



3



- 河川に囲まれた新旧調和の景観ゾーン
- 東武スカイツリーライン・常磐線
荒川橋梁 1922年開通
- 千代田線荒川橋梁 1985年開通
- つくばエクスプレス線 2005年開通

応募者コメント

1「東武とJRとの鉄橋狭間の景色」

荒川を渡る鉄道橋は千住で4本。千住の荒川右岸土手上12キロポストあたりは東武とTX（つくばエクスプレス）の間。そこを通る車両・車種は数多い。東武鉄道伊勢崎線（スカイツリーライン）で東武鉄道（普通・特急）・半蔵門線／日比谷線（東京メトロ、東急車両）、TX。そして、TXの向こう側にはJR常磐線の様々な車両（普通・快速・特急、上野東京ラインも）。そして、その向こうには東京メトロ千代田線。ここにたたずむと、様々な車両が行きかう姿に魅了される。人通りのない、2つの鉄橋に挟まれた静かな鉄道オタクの聖地か？

2「鉄道の音が聞こえる風景」

電車が行き交う音を真下から体感できる。

3「荒川の風景」

走っているときに撮りました！

委員コメント

・北千住駅は1日の乗降客数が全世界でもトップ10に入るほどの巨大ターミナル駅である。その北千住駅につながるすべての路線が、荒川を越える際に地上に出てくるため、多くの路線が集まっている。これだけ密度が濃く、色々な線路が通っているのは珍しい。

・ドラマの中でも鉄橋が写ることで、足立の荒川だと認識できることも多い。今回の選定で、土木構造物である鉄橋も景観の要素であると再認識した。

- 豊かな自然や歴史の景観ゾーン
- 1939年建設
- 2012年6月 国の登録文化財に指定

応募者コメント

1「昭和の家」

季節の花が咲いているお庭を見ながら、落ち着いた雰囲気の中でお茶を飲むことができる素敵な場所です。

2「自然の美しさ」

日の光がきれいに差し込んでいて撮りました。足立区には昔ながらの建築や癒される風景がたくさんあると感じます。

投票者コメント

- ・昭和の家は、時間を忘れて、いつまでも居たいと思う場所です。
- ・新しい風景も勿論必要と思いますが、古い建物や風景は消える一方のため、価値の再認識が今後生じると思う。

委員コメント

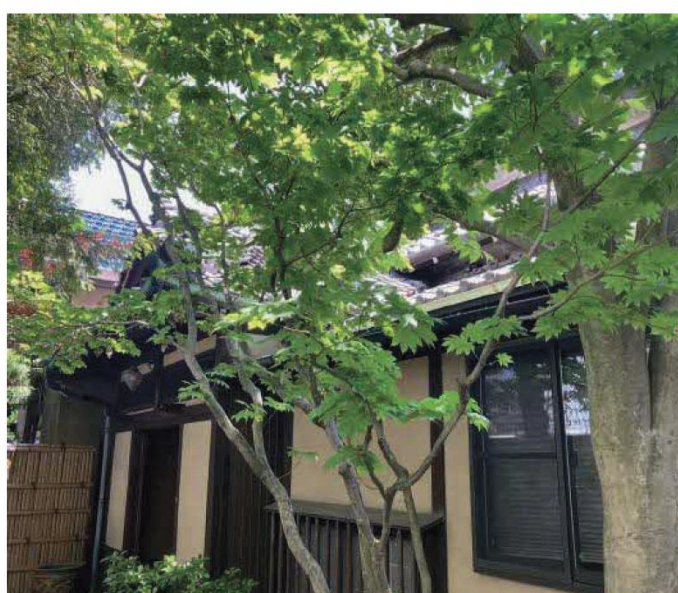
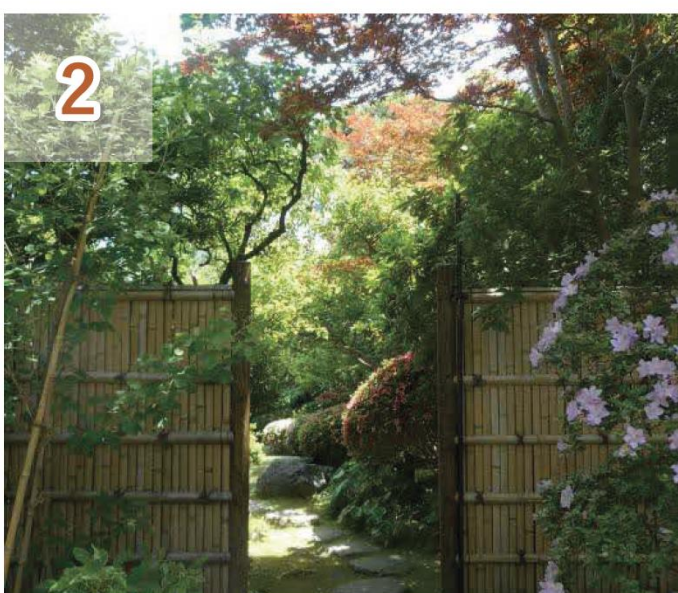
・昭和初期に建てられた洋館付き和風住宅で、国の登録文化財にも指定されている。喫茶店やスタジオとして利用することができ、として営業している間は誰でもはいることができ、よく手入れされた美しい庭も観賞することができる。

・民間の建物であり保存は難しいところもあると思うが、全体的に自然の風景や公共空間の風景が多い中、心落ち着いた空間として古き良き日本家屋も残していってほしい。

1



2



1



2



- 身近な水と緑の景観ゾーン
- 足立区内には 11 体設置
- 第1号（新西新井公園）は 1965 年設置

応募者コメント

1 「たこ公園のたこ」

ピンク色のツルツルしたタコが好きだから。たこさんは足立区の自慢です。

2 「お花見するタコさん」

通称タコ公園。タコさんもお花見です。

委員コメント

- ・ 1 体 1 体のタコさんすべり台ではなく、足立区全域でまとめて、評価すべきと思われる。デザインコンテストで塗り替える企画もあったが、区民参加で風景を作っていくという点は企画の趣旨に合っている。
- ・ 人気があることは理解できるが、景観資源としての価値は別のものになる。景観は一つの文化であり、生物の形を模倣したデザインは、足立区の誇れる文化の象徴ではない。
- ・ 賛否両論で、どちらの意見を聞いても評価は揺れ動くが、足立区らしい風景ではある。
- ・ デザインの評価の線引きは人によって異なる。子どもに喜ばれる遊具ではあるが、景観の視点に絞って考えると、景観資源としてはふさわしくない。今区民に愛されているが、同じようなビビットな色や形状で新設するとなると景観的には反対することになる。
- ・ 区民に愛されている歴史のある遊具としてこれからも大切にしていきたいからこそ、景観としての議論の場から外してもいいと思われる。
- ・ 景観的な評価は難しいということはあるが、生活風景として、長い間親しまれて遊ばれてきたという価値は認めるべきである。